

# 岡山青年部だより

700-0985

岡山市厚生町 3-1-15 岡山商工会議所ビル 2F

(社) 岡山ビルメンテナンス協会 青年部会

TEL: 086-225-8660

Eメール: [okbm1@lime.ocn.ne.jp](mailto:okbm1@lime.ocn.ne.jp)



25号

編集・発行: 社団法人岡山ビルメンテナンス協会青年部会広報委員会  
平成19年1月25日発行(通算25号)

## ビルクリ中国大会開催

平成18年10月11日、山口県下関市において、中国5県を代表する選手が集い、「第9回ビルクリーニング技能競技中国大会 in 山口」が開催されました。

岡山青年部は親睦を兼ね、岡山県代表選手の応援にかけつけました。

その内容について、高田・黒住広報委員の記事と鳥羽選手の感想文をご紹介します。

### 「第9回ビルクリーニング技能競技中国大会 in 山口」に参加して

10月10日(火)  
早朝、一路門司・下関に向けて林原駐車場をバスにて出発。

静かだったバスの中も山陽道に入り、福山SAを過ぎた頃から、最近のビルメンテナンス業界についての情報交換、あるいはお互いの自己紹介等、だんだんと賑やかになり、親睦がはかられているうちに門司レトロタウンに到着。

昼食後、門司駅、門司税関、三井倶楽部などレトロタウンを散策し、定期船で下関へ。

下関では「海峽館」見学の後、今回のビルクリ競技会場である「海峽メッセ下関」の下見に。

すでに会場の設営もされており、他県の選手、関係者も下見にいられていました。

会場は、下関港近くで、海に面する国際貿易センターのアーリーナとなっています。

この施設は、国際貿易ビルと会場となるアーリーナと高さ153mを誇る「海峽ゆめタワー」で構成されており、巖流島も見える景色のとてもいい場所でした。



門司駅舎見学中...

10月11日(水)  
一日目は、「ビルクリーニング技能競技山口大会」出場の岡山県代表3選手の応援に。

ビルクリーニング技能士有資格者は全国で約4万人とお聞きしていますが、その中から中国5県の代表16人の精鋭が、4m四方の枠に事務機とイスが置いてある競技コートで床面の除塵作業、洗浄作業、ワックス塗布作業、さらに使用資材の片付けまでの技能を競いました。

各選手は、応援団の「落ち着いて」「ガンバって」の声援の中、懸命に、汗だくになりながらも手際よく効率的に、20分以内に綺麗に仕上げ、さすが代表選手だなあと感心させられました。

2人がA・B2つのコートで競技し、8組16人が技能を競った訳ですが審査の結果は、優勝が山口県代表藤原選手、2位が広島県代表藤内選手、3位が山口県代表江島選手となり、岡山県代表の3選手は惜しくも入賞できませんでした。

しかし、各組とも作業終了がほぼ同時で、審査委員長の講評にもあった通り「誰が優勝しても良い」と思われるほどレベルの高い競技であったと思っております。

國富選手、内山選手、鳥羽選手におかれましては、大変お疲れさまでした。今後、それぞれの職場でますますのご活躍をお祈り申し上げます。ビルメンテナンス業界は、価格の低迷



開会式のひとコマ

など大変厳しい時代ですが、こうした大会を通じてクリーンクルーが研鑽を重ね、明るく気持ちの良い作業マナー、作業時間の短縮など、手際よく効率的なビルクリーニングをすることが、発注受注双方と申しますか、全体のコスト削減、また働く意欲の向上につながることにあります。

この大会を通してビルの衛生維持、そしてなにより快適な生活環境を目指して協会員が皆で努力していかねばならないと感じました。ビルクリーニング技能競技中国大会には初めて応援参加しましたが、有意義な大会となりました。

最後になりましたが、お世話いただきました小川青年部会長をはじめ青年部の皆様、事務局の岡野・高橋両氏にお礼申し上げます。

財団法人厚生会

高田 道博

黒住 英明

### 「中国大会を終えて」

平成18年10月11日に山口県下関市で「第9回ビルクリーニング技能競技中国大会 in 山口」が開催され、私は岡山県代表選手の1人として出場しました。

「出るからには優勝したい!」

「岡山チームのためにも優勝する!」と、いつも思っ続けて練習していました。

当日はかなり緊張していましたが、大きなミスもなく練習の成果を発揮できたと思います。

ですが、結果は優勝どころか上位入賞も出来ず、不甲斐ない結果に終わってしまいました。

閉会式終了後、なんだか力が抜け、悲しいのと期待をかけて貰っていただけに



力強い作業の國富選手

申し訳なくて、一人になりたいとばかり思っていました。

帰りのバスに乗っても早く帰りたい、早く一人になりたいとばかり思っていました。

でも、岡山への長い帰り道で自分以上に悔しがってくれる仲間や、私の不甲斐なさを自分のせいだとおっしゃって下さる指導者の方、これからの為に指導下さる方、他人事を自分のことのように思っ下下さる方、笑顔でよく頑張ったとおっしゃって下さる方、そんな方々に支えられてここまで来たんだな、と改めて感じることができました。

この時、私の中で「悔しい、悔しいからこそこは絶対に優勝してみんなを笑顔にしたい!」と新たな目標が見えました。

この大会で得た本当に様々な心の勉強は今後も忘れず、仕事に、そして次回の中国大会へ向けて、努力していきたいと思っております。

最後になりましたが、私を指導して下さいました方々、また応援して下さいました方々には本当にありがとうございます。

日本ビル管理(株)

鳥羽 志津花

### 広報委員会より

3名の選手の方、本当にお疲れ様でした。仕事の合間に練習を積み重ねられ、結果としては入賞から漏れてしまいましたが、当日のパフォーマンスは岡山応援団を感動させるものでした。

「決して負けてはいない」と感じたのは私だけでしょうか?

紙面の都合により内山選手の感想、当日の写真はホームページに掲載しています。ぜひ、ご覧下さい。



ていねいな作業で注目された内山選手

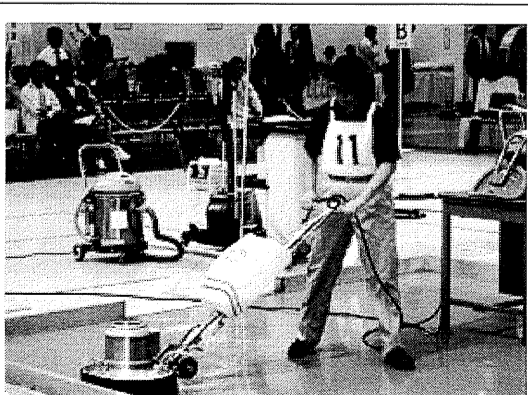
### 中国地区各県青年部交流会

第9回ビルクリーニング技能競技中国大会を翌日に控えた10月10日、ともに山口の地にいることを

絶好の機会として、広島・山口・岡山の各青年部の有志により交流の場がもたれました。

来年には新しく鳥取青年部が創立される動きもあるそうです。今、各青年部間のネットワークを構築していこうとしている中で、今後、これをどのような方法・方向性で発展していくことがネットワークを構築する意義となるか評議されました。

活発な意見交換のあと、親睦を深めるための交流会がもたれ、楽しい山口の夜となりました。(ホームページより抜粋)



ムダのない動きだった鳥羽選手

# 青年部全国大会 in 熊本

平成18年9月6日、熊本ホテルキャスルにおいて、第11回ビルメンテナンス青年部全国大会in熊本2006が開催され、青年部から小川部会長以下、麻田副部会長、宮下総務委員長、永谷企画研修委員長、藤原の5名で参加しました。

大会参加者数27人。特に九州各県からは多く参加されていたようでした。

第1部は、ご当地熊本生まれで、陸上競技で活躍された後、現在タレントとして成功されている松野明美氏の講演でした。



松野講師がこれまで歩んでこられた人生について語られていく形で講演は進んでいきましたが、並大抵ではない高さにまで迫り着いた人の体験というものは、聴いていてやはり惹きつけられます。

アスリートからタレントに転向した現在もこの仕事で失敗すれば次の仕事は誰もくれない、常にそういう危機感を胸に頑張っておられるとのことでした。

そして自分が頑張つてこられたのも、頑張つていけるのも、いい出会い、いい触れ合いのおかげであると、一モアたつぷりの表現と語り口につつま、伝えてくれました。



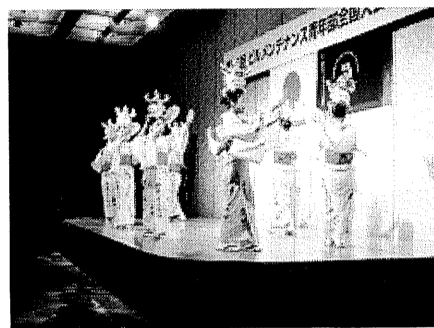
第2部は童謡コンサートでした。暖かくやさしく透明な歌声でたまらないほどノスタルジックな曲の数々を披露

し、われわれのハートをほんわりふんわり癒してくれたのは、地元を基盤に活躍するDOYO組のやべせいこさん、そがみまこさんのお二人でした。

お二人の歌声は美しく、かつ、やべさんは清楚な凛々、そがさんはコケティッシュで、最前列に坐らなかつたことを後悔するほど魅力的な女性たちでした。

その後の懇親会では熊本の郷土料理、

また、その昔濃い霧に進路を阻まれた景行天皇のご巡幸を山鹿の里人が松明を掲げて



お迎えしたことに由来する優美な山鹿灯籠踊り、そして気立てのいい熊本の女性による申し分のないおもてなしで大満足でした。

1年ぶりにお会いする方、初めてお目にかかる方、その邂逅に感謝し



全国の同志と一同に会ってきた勇気を感じつつ会場では乾杯が繰り返され、会話と笑顔が途

切れませんでした。熊本青年部の皆様、お世話になりました。(ホームページより抜粋)

## 青年部全国大会に参加して

私は、現在ビルメンテナンス協会青年部に所属し2年目を迎える新参者です。昨年何も分らないまま、岡山での全国大会においてあつたという間に過ぎた時間を思い出すと、今回は少し気持ちにもゆとりが持てた全国大会でした。

私にとっては熊本での思い出と言え「火の国熊本国体」の思い出が強く、最後の国体参加でした。

この度の全国大会はビルメンテナンス協会青年部としての全国大会であり、「一期一会」をテーマにした大会とすることで、どういった方と出会うのか、また、昨年岡山へお越し頂いた皆様と会えるだろうか。感謝の気持ちを伝えたいと...と期待一杯でした。

会場へ着くと、逆に感謝を伝えるどころか、感謝を頂きに伺ったように熊本の皆様が温かかった印象が残っています。式典の第一部では、タレントで有名な松野明美選手の話が聞けましたが、ほんとは良くしゃべる方で、テレビのまんまでした。しかし、体のハンディをものとし、力ある話で、スポーツマンとして誇りをもって生きていく感じがひしひしと伝わってきました。同じスポーツマンとして共感できる面も多々あり、私にとっても大きな出会いの一つとなりました。

第二部では、童謡を聴くことだったので、童謡って?...という疑問符が出てくる気持ちでしたが、二人組みのユニット「DOYO組」の歌唱力と、誰でも聞いた事のある歌で大いに盛り上がりました。童謡は幼少時代に誰でも歌い、そして聞いたことのある歌であり、懐かしい思い出が頭をよぎると共に、普段清掃業務で、見えるものをきれいにしている自分たちが、人には見えないものをきれいにしてもらった実感が湧きました。

今、いじめ問題等の社会現象が起きている中、何か力になって貰いたい、「DOYO組」のユニットでした。

第三部は懇親会でしたが、地元の踊り等歓迎ムードで包まれましたが、長い熊本の夜の幕開けでもありました。各テーブルを回り、昨年の御礼に伺うつもりでしたが、挨拶もろくに出来ない、不甲斐無い自分もどかしく感じました。

全国大会が終わり、何を学び、学ばないかは自分次第であり、また自分への課題もしっかりと詰めておかなければなりません。1回目より2回目そして3回目...いずれにしても、参加できる限り、情性で参加することでは、学ぶことも出来ず、漠然と人に会うだけで終わってしまいます。

今回の熊本のテーマ「一期一会」に凝縮されるように、その言葉の本質を捉えることで、まだまだ成長できる自分を見つけることが出来た全国大会でした。熊本の皆様、本当にありがとうございました。

株式会社 日建 永谷 宏

広報委員会より...永谷さんはハンドボール競技で国体に出られています。

## 広島青年部 創立20周年記念式典

平素より岡山青年部がお世話になってる広島青年部。昭和60年12月に社団法人広島ビルメンテナンス協会の中で青年部を創立以来、継続20年を迎え、20周年を記念する記念式典及び記念講演会が、平成18年12月22日、リーガロイヤルホテル広島において開催されました。

会場には中国地区本部をはじめとして中国各県協会長、広島青年部OB各氏など多数の来賓が臨み、先日のビルクリーニング大会の運営に功績した山口青年部、山陰に青年部を新設すべく準備を進める鳥取・島根のニューリーダーの方々とともに、岡山青年部も列席いたしました。

九州・四国を代表し熊本青年部・徳島青年部もお祝いにかけつけ、他様々な立場の方が出席したことで、交流の場としても参加意義の高い事業になったと思います。

同時に、企画、準備、運営のすべてにおいて、広島青年部諸氏のスキル、結束力、そして何より業界「Love」の心意気が熱く伝わる記念事業でありました。

パワーポイントを用いて青年部20年の歴史を説明する企画を組み入れるなど秀逸な構成で展開した記念式典。その中で次々登場し語られるスピーチから、良質の刺戟を受けることとなりました。

とりわけ来賓の方々から広島青年部に向けて贈られた祝辞は、業界の発展に献身してきた先駆者から継いでいく世代への

のエネルギーとして、列座するわれわれとしても当然持たねばならぬ覚悟を再認識させてくれるものでしたし、未来に立ち向かっていく勇気を与えられるものでもあり、承ることができたことを幸運に感じます。

この記念式典において、もう一つ特筆すべきことがあります。それは20年の節目を迎え、広島青年部がもつとも感謝したい人として広島協会事務局村田由美氏に花束と記念品を贈呈したことでした。有能にして心優しい広島青年部の皆様には、行き届いた素晴らしい事業にご招待いただいたお礼を、この場を借りて申し上げさせていただきます。

青年部副部会長 麻田 浩

岡野事務局長より記念講演の内容についてご寄稿いただきましたのでご紹介します。

## 広島青年部創立二十周年記念講演会 「資金0からのスタート」を聴いて

十二月二日広島青年部創立二十周年記念講演会として、マネーの虎としてTV等で活躍の堀之内九郎氏の講演がなされた。氏は、振幅の大きな失敗・成功の後、リサイクルショップで現在の地位を築かれている。数々の失敗談を踏まえられた講演は、次世代を担う青年部にうつつつけの内容であり、ここに一部紹介させていただきます。

氏は、商売上手なご両親のもとで幼少時より商売の才覚を発揮されたが、都度どん底に陥られた。(起業者であり、実業家でもなかったか)ホームレスからリサイクル事業で再起され、現在の事業継続の裏には、ホームレス仲間の一言一おまは、金・金・金と言って商売するから失敗を繰り返す」があり、この言葉は、以前よりセミナー等で聞かされてはいたが、上からの話は、反発をもつて聞き流してしまっていた。どん底の人からのこの一言は身に沁みてこたえ、「夢を持つて仕事する」「雇用は最大の福祉である」との立場でリサイクル事業を起こされた。(起業者家に脱皮されたと思われる)氏は、「金から夢」への行動として、売れない商品(商品価値を度外視した製品価値の追求・価格設定)の開発に取り組み、バイクを発表されたところ、大反響で、意に反する売り上げとなり、現在、新たな製品を計画(例えば、大型で持ち運び不便な携帯電話とか)との事例が示された。

氏のお話の中には、このような逆転の発想が随所に見られた。例えば、取立てに集まった町金業者相手に逆に借金を申し込むとか、人生は、未来に向かうのではなく、「借金」の「借」の字にあるとおり、人は昔を作る...と言った話がなされた。このような体験をもとに、「お金は道具である」と話され、「量入制出」の大切さが述べられると共に、企業においては即換金できる価格が資産価値であり、在庫商品・備品・建物等を簿価でなくたまには実勢価格としての見直しを経営者には必要と説かれた。

また、企業の創生期には、目標に向かつてまい進したから成長したのであり、企業活動の停滞を感じたら、原点に立ち返り、ひとつ事に集中し、日産のゴーン氏の如く他を全て切り捨てる胆力も必要と、手段についても触れられた。

氏は、結びとして、「私は、運の良い人間である。それは、人生の浮き輪を持つているからである」と述べられ、具体的言葉としては述べられなかったが、問題にぶつかった時、岐路の選択肢として、ひとつに集中する事に感じられた。それまでの話からして、その選択を行ったどん底時においては、氏のなされた自殺未遂を除き、必ず人との繋がりがあつたように思われた。町金業者でありホームレスであり、その人から受けたものを吸収されたからこそ今日があるように感じられた。人から吸収し、消化する力を磨く事が人生の浮き輪をつかむ手段ではないかと感じた有意義な講演であつた。

直接氏の講演を聴かれた方は、それぞれの感性で、また違った浮き輪が得られた事と思われる。(文中◎は、独自の解釈である点を申し添えます)

事務局長 岡野 照弘

## 今後の主な予定

1月31日 16時  
青年部総会・懇親会  
(ピュアリティーまきび)

2月14日 14時  
青年部研修会  
(岡山南ふれあいセンター)